

全体講評

新試験制度対応の今回のプロジェクトマネージャ全国統一公開模試午後 の記述式問題は、例年どおり PM として持つべき基本的な知識や考え方を問う比較的易しい問題だったといえます。本試験でも難問奇問と思えるようなものは、最近はずり出題されることはありません。一般的な専門知識を前提に、問題や設問を十分に理解すれば答えられる問題が多く、問題文や設問文にある解答制約を把握して、正解へたどりつくことが重要です。誤答になるのは、この手順に誤りがあった場合、例えば一方的な思い込みなどによって起こるので、答え方や問題の読取りに神経を使う必要があります。

解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答も見られます。指示に従っていない解答も散見されます。問題文や設問文に書かれている表現が大きなヒントであり、解答の手がかりであることをしっかり理解した上で、適切な解答表現をまとめるようにしましょう。

この春から新制度での試験が始まります。従来のプロジェクトマネージャ試験に比べ、解答問題数が 3 問から 2 問に減っています。つまり、この新制度の試験では、4 問から 2 問を選択するという作業が必要となります。解答用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと 2 問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えている人が 1~2 割くらい見受けられました。これは解答以前の問題なので、くれぐれも注意して指示どおり確実に問題を選択するように心がけてください。

解答方法の注意点として、とにかく問題文や設問文をよく読むことが挙げられます。解答のヒントや解答そのものが書いてある場合がありますので、それを無視した解答をしてはいけません。また、漢字の間違いや略字、問題文や設問文とずれた解答も見られました。注意しましょう。

問 1 Web システム開発プロジェクトの要員管理

開発プロジェクトの要員調達や管理に関する問題でした。派遣契約やチームへの要員の割当て、コミュニケーション管理に関して、設問で問われ

ています。派遣契約に関する知識と問題文の手掛かりを合わせて解答する必要があります。

[設問 1]

(1)は、「はけん契約」や「派けん契約」でも正解としました。「派遣」のみでは不正解としています。指示を守って解答しましょう。(2)は必然的な理由を解答しましょう。「Q 社の業界や業務の知識が不十分であること」を適切に説明していないと不正解です。

[設問 2]

これは、Web DB システム開発チームに G 社要員を割り当てた理由なので、G 社要員についてのメリットを明確に解答します。P 社要員のことや Web I/O システム開発に G 社要員を割り当てない理由を述べている場合、半分の得点にしています。

[設問 3]

(1)はコミュニケーションの問題を挙げる解答が散見されましたが、この時点での直接の原因を挙げて(2)以降につなげる必要がありますので、注意しましょう。(2)は一部要員のチーム移動について、しっかり説明してあれば正解としています。解答表現が甘いと半分の得点にしています。

[設問 4]

コミュニケーションのルールについて言及する、マネジメントの視点からの解答は少なかったです。ある一つの特定のやり方のみを述べている場合は半分の得点にしています。

問 2 システム開発プロジェクトの品質管理

システム開発プロジェクトの主に上流工程における品質管理の問題でした。レビューの方法、要求定義、開発標準の整備について問われています。とにかく問題文にある手掛かりをしっかりと押さえ、解答することが求められる問題です。出来は良かったと見受けられます。

[設問 1]

品質低下に注意すべきである理由を三つ解答します。問題文の記述に準じて記述すれば解答できます。容易な設問でした。なお、パッケージソフトウェアの問題は、パッケージ自体の扱いが少な

いことでも正解としています。

[設問 2]

(1)は、「ピアレビュー」でも正解としています。「ラウンドロビン」という解答も見られましたが、主催者の持ち回りを明確に言っていないので適切な解答とは言えません。(2)は問題文の記述に準じて、「主体性」、「知識吸収意欲」がキーワードとなります。これらをうまく表現していれば正解です。

[設問 3]

(1)は、静的な画面・図によることでは解答として不適切です。問題文に、ドキュメントのみでは不十分とあります。「プロトタイプ」に関して解答しましょう。(2)は、部分的、限定的な解答表現が目立ちました。本質的な一般性のある解答表現が望まれます。部分的、限定的な解答表現の場合は得点を半分にしています。

[設問 4]

(1)は状況を説明しただけの解答は不正解です。どのように問題なのかがよく分かるように表現しましょう。(2)は標準化することを明確に解答しましょう。この点があいまいな解答は半分の得点としています。

問 3 プロジェクトの開発コスト

システム開発プロジェクトの費用管理に関する問題でした。見積りや仕様変更、費用増加の抑制策について設問で問われています。本問は解答数が少ないのですが、設問の要求していることがとらえにくいいため、難しい問題でした。

[設問 1]

「WBS の作成」と「WBS で定義された作業項目ごとの作業量見積り」の間に漏れている作業を解答します。「要員の配置」がその次にあるので、要員のことでなく WBS に関する作業を答えなければなりません。作業の洗い出しについて具体的に説明できていれば広く正解としています。

[設問 2]

顧客側のコスト超過要因であることが重要なポイントです。顧客責任を明確にすることが説明できていれば広く正解としています。

[設問 3]

難しい設問でした。開発ツールという表現は問題文中に出てこないため、ほとんどできていませんでした。設問の表現から、「生産性」に関することを解答する必要があります。「低価格の外部委

託」、「単価の安い要員調達」などは生産性とは直接結びつきません。また、「作業の見直し」は、別のアプローチと言いはれ難いです。いずれも不正解としています。

[設問 4]

この設問は手掛かりがはっきりしていて易しい設問でした。解答例の趣旨を適切に表現できていれば広く正解にしています。

問 4 プロジェクトの請負契約

プロジェクトの請負契約に関する問題でした。請負契約のメリット・デメリットに関して問題点や施策、考えを問う内容になっています。請負契約に関する知識と問題文中の手掛かりから解答を考察するようにします。基本的な問題なので、出来は良かったと見受けられます。

[設問 1]

「コスト面以外の要素で判断していること」を解答した場合は、半分の得点を与えています。状況・事実をしっかりと押さえて解答しましょう。

[設問 2]

問題文の手掛かりが明確なので易しい設問です。特に不十分な点は明確で、それにおける不十分さの解消を修正案として解答すれば良いこととなります。考えすぎと思われる解答も見られましたので注意してください。

[設問 3]

「瑕疵担保責任」の用語を解答して正解としています。言葉ではなく意味内容を答えている場合は半分の得点にしています。

[設問 4]

「請負契約を分割して締結すること」が解答の要点です。このことを適切に解答していれば、広く正解としています。

[設問 5]

解答例の他に、「再見積りする」、「見直しする」といった解答も正解としています。

以上